



Title	『儀礼』土昏礼の復元
Author(s)	
Citation	中国研究集刊. 1994, 15, p. 96-103
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/61059">https://doi.org/10.18910/61059</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 『儀礼』 土昏礼の復元

はじめに

中華民国は一九六〇〜七〇年代に盛んに行なわれていた中華文化復興運動の一環として、台湾師範大学の周何教授らが監修を行ない、『儀礼』土昏礼の復元を映画化した。土昏礼について、『儀礼』の他篇についても復元を行なうという計画であったが、その後どのようになっているかは定かでない。

本来は十六ミリの映画であったが、ビデオに写し取られ、以後、ダビングを重ねてきた。今回使用するビデオも何回かダビングを重ねてきたため、映像はよくない。特に最初の数分間は、音声がまったくためである。また、最後まで、本稿の附記に記すように、『儀礼』土昏礼の末尾の三章を欠いている。そのように不完全なものではあるが、全体として土昏礼の進行を復元している点は、学術的に参考になる。なお、土昏礼に対する、このビデオが基づいている解釈については、紙

幅の関係上、省略する。

以下の昏礼次第は、ビデオで放送している説明に基づいているが、紙幅の関係上、ほぼその大綱を記したものである。『儀礼』特有の分りにくいことばをやさしく言い換えている点もそのまま生かしてある。

なお、ビデオの説明の詳細は大阪大学文学部中国哲学研究室に架蔵されている。

士の「昏礼」つまり「婚礼」の礼式は次の順に行なわれる。

- 一 納采
- 二 問名(ビデオでは省略)
- 三 禮使者
- 四 納吉(ビデオでは省略)
- 五 納徵
- 六 請期(ビデオでは省略)

- 七 予陳饌
- 八 親迎
- 九 婦至成礼
- 十 婦見舅姑
- 十一 贊醴婦
- 十二 婦饋舅姑

(以下の三章は録画されていない)

### 一 納采

男(新郎)側から女(新婦)の家へ使者(媒介人)を送り、「采」(採択)の意味を表わすための礼物を納める。新郎側の結婚申し込みと新婦側の承諾の返答はすでになされている。礼物は生きた雁(鶩鳥)である。雁は陰陽に順つて往来する故(鄭玄の注)である。納采の次第は、新婦の家に到着した使者が、出迎えをうけて、大門から廟門に至る。この間揖ゆづりの礼がかわされる。そして讓の礼をかわしたあと、主人(新婦の父)が先に東の階段から、使者は後に主人から一段遅れて西の階段から堂に上がる。

堂の棟のもとで使者は東面して「納采の礼を執り行なわせていただきます」と告げ、東にいる主人は、「娘はよき教えなぞ受けてはおりませんが、あなたさまの御主人から婚約するようおおせくございましたので、あえて御辞退はいたしません」と答える。

使者は雁を主人に渡し、主人は受け取ったあと東の階段を下り、自分の家の執事役の老人に雁を渡す。

### 二 問名(ビデオでは省略)

「納采」が終わったあと、新郎側の使者が新婦の名を問う「問名」の礼が行なわれる。名を卜つて吉凶を知るためである。

「問名」の次第は「納采」と同じ。

### 三 醴使者

「問名」のあと、主人(新婦の父)が堂の上で宴を開き、醴(甘い酒)で使者をもてなす「醴使者」の儀が行なわれる。

新婦の家の案内役が使者に、おもてなしをしたたく、と告げ、使者が感謝すると、主人が使者を招き入れ、揖や讓の礼をかわしたあと、堂に上る。使者の席や几が設けられる。贄（主人の補佐役）が醴を觶（大形の盃）に酌み、柶（角製のさじ）を添えて主人に渡し、主人は進み出て、使者に觶を渡す。贄がさらに乾肉や塩辛をすすめる。

使者は北向きに祭（酒などを神にささげる礼）したあと、醴を味わう。そのあと、乾肉を取り、持って、西の階段を下り、乾肉を自分の従者に渡す。

そのあと使者は主人に見送られ、廟門を出、大門を出る。

#### 四 納吉（ビデオでは省略）

「納吉」は、新郎の家が結婚の吉凶を卜い、「吉」の占であったと、使者を新婦の家へ送って、報告する礼である。

次第は「納采」と同じ。

#### 五 納徴

現在の婚約の礼に当たる。（日本の結納を納める儀式）

新郎側から使者を新婦の家へさしむけ、幣<sup>二</sup>束帛（十端の絹織物）と儷皮（二枚の鹿の皮）を納め、婚約がととのい成ったことを示す。「徴」は成の意。

次第は、新婦の家の大門に到着した使者をまず新婦の家の贄が出迎え、次に主人（新婦の父）が出迎えて、使者を案内して、大門から廟門へ、そして堂へ上る。

この間、揖や讓の礼がかわされる。

使者は堂の棟のもとで、東向きに、「納徴の礼を行なわせていただきます」と主人に告げ、主人は「お宅さまの御主人からこのような鄭重な礼法を賜わり、もとより私はお言いつけに従います」と答える。そのあと使者は主人に束帛を渡す。このおり堂の下の庭では使者の供の者が儷皮を広げ示すと、主人の家の従者がそれを受け取る。

そのあと、主人は束帛を持って東の階段から下り、執事役の老人に束帛を渡す。

## 六 請期（ビデオでは省略）

新郎側から新婦の家へ使者をさしむけ、結婚の日を相談して定める儀式。

次第は「納采」と同じ。

## 七 予陳饌

次の「親迎」の前に、新郎の家で、予め饌（あらかじせき 飲食物）を陳べる儀式。

新郎の家の寝門（寝は新郎の居室）の外の東方に三つの鼎を並べる。それぞれ豚・魚・兔の乾肉を盛る。鼎には肩（かた）かつぐための横木）と幕（へまき 覆い布）が別に用意される。

手洗いの水容れとすすぎ水受けの器を東の階段の下に置く。

房の中には、祭物を並べる。豆（とう たかつき）が六つ（酢と味噌が二、漬け物と塩辛が四）、敦（とん 球形の祭器）が四つ（もちきびが二、うるちきびが二）。豆は

すべて布で覆う。

室の北壁の下に二つの尊（壺）を置く（酒一、玄酒一水が一。新郎・新婦に酌む）。覆い布をかけ、その上に勺（ひしゃく）をのせ、柄は南に向ける。

戸の東に一つの尊を置く（酒。新郎・新婦以外に酌む）。尊の南に篋（ひ 竹製のかご）を置く。中には四つの爵（しやく 祭礼用の盃）と二つの盃（きん 匏を割った杯）をそなえる。

## 八 親迎

新郎がみずから新婦を迎えに行く礼である。

新郎は爵弁（色が爵の頭の色に似た冠）をつけ、纁裳（うすい赤色の裳）をはく。礼物に一羽の生きた雁を持つて行く。

新郎は六台の馬車を指揮する。新郎は墨車（大夫用の黒漆塗りの車）に乗り、従者は二台の馬車に乗り、後に従う。すべての馬車の前を松明をもった者が道を照らしながら先行する。

ほかに垂れ布をたらしした三台の馬車が従う。新婦とその付き添いを乗せるための馬車である。

新婦の家に到着すると、主人(新婦の父)が新郎を出迎え、大門をはいり、廟門をはいり、主人が先に東の階段から堂に上り、新郎は後に西の階段から堂に上る。新郎は堂の上で北向きに膝つき、雁を供え祭り、再拝・稽首(座つて頭を床につける礼)をする。主人は西向きに立つ。

このおり、新婦の母と庶母(新婦の父の側室)は房の戸の外で南向きに立つ。房では、新婦が髪飾りをつけ、黒い絹の衣と裳を着、うす赤色の膝かけをまとい、南向きに立つ。姆(新婦の乳母・教育係)は新婦の右に立つ。新婦の媵(付き添いの女性)などの従者四人は新婦の後に立つ。

新婦とその従者たちは房から出ると、母や庶母の側を通り、東の階段の上の父の前へ進むと、父は新婦を教え諭す、「注意深くあれ。慎み深くあれ。舅さま・姑さまのお考えにそむいてはならぬ」。そのあと、新婦と従者たちは母と庶母の後に従い、西の階段へ進む。母は新婦の腰にスカーフを結んでやった後、新婦を教え励ます。「努めなさい。つつましくありなさい。嫁入り先の御家風にそむいてはなりません」。

それから、新郎は新婦とその従者たちを引きつれて、西の階段から堂を下りる。新婦の父と母とは堂を下りての見送りはしない。庶母は新郎・新婦たちの後から廟門までついて出、新婦に小さな皮袋を腰に飾りつけてやり、もう一度新婦の父と母の教えの言葉をくり返す。そのあと、新婦たちは新郎の後に続いて廟門を出、大門を出る。

新郎は、新婦が車に上がりやすいように、つかまる紐を新婦に手渡そうとし、姆が新婦に代つて一度辞退する。新郎は先に車に乗り、姆が紐を受け取り、新婦は紐にすがつて車に上る。その後、姆も同じ車に上り、新婦にコートをかける。

新郎は新婦のためにみづから馬を馭して馬車をすこし進める。車輪が三回まわったあと、馬車を停止させ、新郎は新婦の馬車から下り、御者が新婦の馬車に乗り、馬を馭す。新郎は自分の馬車に乗りかえ、先頭にたつて進む。新婦の馬車も後に続き、かくして新婦はその実家を離れ、新郎の家へとおもむく。

先に自分の家に着いた新郎は、大門の外で新婦を待つ。

## 九 婦至成礼

新婦が新郎の家に到着し、婚礼の儀が終了するまで。

新婦や従者の馬車が新郎の家の大門へ到着すると、まず母が下り、そのあと新婦が下り、新郎は大門の外で一度揖の礼をしたあと、新婦やその従者をつれて、大門に入り、寝門に入り、西の階段を、新郎が先に、新婦と母が後に、堂に上る。

新郎はそのまま室に入る。その席につく。新婦と母は入口の前に膝つき、靴を脱いだ後、室に入る。新郎は靴を脱ぎ、席の上に立ち、新婦と母は尊(壺)の横に立つ。従者がすすぎの水を運び、新郎と新婦が手をすすいだあと、室では尊の覆いはずされ、庭では手をすすいだ従者たちによって覆いはずされた鼎が東の階段の下に並べられる。

そのあと、鼎や豆や敦や尊のもろもろの饌が新郎の前に並べられる。並べ終わると、饌をはさんで新郎の席の向かい側に新婦の席を設ける。そして、「すべてととのいました」と報告があると、新郎は新婦に一度

揖の礼をし、新郎と新婦は席にすわる。

それから新郎と新婦は祭の礼を行ない、それらを食べる。食事の礼が終わったあと、尊の酒が爵と盃に酌まれ、新郎と新婦は拝礼してから三度酒を飲む。二度は爵、最後は盃。肝もすすめられる。

次に贊が自分で酒を祭り、飲み終わると、室を出る。新婦は室を出ず、尊の横に戻る。新郎は室を出て房に入り、礼服を脱ぐ。新婦は室の中で礼服を脱ぐ。母は新婦に巾(手ぬぐい)を授ける。

室の奥に新郎と新婦の衽しとねかしかれる。枕がそえられる。

新郎は房から室に戻り、新婦の纓よこ(飾り紐)をほどく。かくて昏礼の儀は終わる。母は室を出、灯火も室から出される。このあと臥ふし息やすむ。

室の饌は房に移され、室におけると同様に並べられる。これらの残された飲食物は、贊や従者たちが祭り、飲食する。

急用にそなえて、賸は室の戸の外に控える。

## 十 婦見舅姑

婚儀の翌日、新婦が新郎の父・母に見える儀式。

新婦は、夜明けに賛につれられて、舅・姑の寢門に入る。媵が二人従い、棗なつめと栗を盛った筭はた（竹かご）と乾肉を盛った筭を持つ。

新婦はまず棗と栗の筭を持って、西の階段を上り、東の階段の上の舅の席の前に膝つき置く。舅が受け取る合図として膝つき筭をなでる。執事が筭を受け取り、下げる。新婦は西の階段を下り、階段の下の媵から乾肉の筭を受け取り、また西の階段を上り、房の戸の前の姑の席の前に膝つき筭を置く。姑は筭を受け取り、筭を執事に渡す。新婦は階段を下りる。

### 十一 賛醴婦

新婦の舅と姑への拝謁の返礼として、舅と姑が、賛に命じ、醴で新婦をもてなす儀式。

室の北に新婦の席を設ける。新婦は席の西に立つ。賛は房で醴を罎に酌み、新婦の席の前に進む。新婦は拝して醴を受け取る。賛は房から乾肉・塩辛の豆を

持つてきて、新婦にすすめる。新婦は席に座り、乾肉・塩辛を祭り、さらに醴を祭り、席を下り、東向きに座って、醴を味わう。そのあと新婦が拝礼し、賛が答拝する。それから新婦は席に戻り、罎を置く。ついで席を下り、膝ついて乾肉を手に取り、立ち、西の階段を下りて、寢門を出、乾肉を媵に渡す。乾肉は新婦の実家に持ち帰り、父や母に見せる。

### 十二 婦饋舅姑

醴もてなしを受けたあと、新婦が舅と姑に酒食を饋かりもてなす儀礼。

室の奥の席に、舅と姑が並んで座る。席の前に豚肉等の食物が並べられる。

新婦は手を洗ったあと、舅・姑の席の前に進み、舅・姑が食物を祭り、食べるのを助ける。そのあと爵に酒を酌み、舅・姑にすすめる。舅・姑が酒を祭り、酒を飲みほすと、新婦は先に舅から爵を受け取り、室を出て、筐かご（竹かご）の中に爵を置き、つづいて姑の爵を受け取る。

## 附記

「土昏礼」では、「婦饋舅姑」の下に、「舅姑饗婦」、

「舅饗送者」、「舅姑没、三月廟見」の三章があるが、ビデオはここで終わっている。